

☆コラム

親としての学び合いを高校でも

子どもが高校生になると、親はほっとして子育てが終わったような気持ちになることが多いと思います。しかし現実には、終わるところか、新しい悩みや不安が山積します。高校生になったのだからと、放任してしまう親もあります。親子でほとんど会話ができなくなることもあります。

世の中はどんどん変化して、子どもたちが世の中で活躍する10年後、20年後には通信手段も職業も働き方も大きく変わっていることでしょう。親世代が自分たちが学んだ知識や技術を子ども世代に教え込むという時代ではなくなりました。親もまた新しい親の役割を学んでいかなければならない時代です。親たちはどのように親の在り方を学んでいけばよいのでしょうか。

大切なことは、同じ世代の親同士が、共に学び合うことで最も力になる学習ができるということです。

子どもの将来や生き方などについては、正しい答えが一つだけあるわけではありません。親の在り方も正解が一つではありません。いろいろな親がいろいろな子育てをしています。多様な生き方、多様な考え方があることを知ること、なぜそうしているのかを知ること、自分も豊かになることができるのです。

親の役目は終わることはありません。学校は、もっと思春期の子を持つ親同士が、学び合える場となって欲しいと思います。保護者や教師、地域の人材と一緒に、自分の学校に合った学びの場を工夫されることを期待します。



宇都宮共和大学
特任教授
牧野カツコ

保護者が子どもに大事なことを語る事ができる最終段階が高校時代である。



親学習の基本は、他人の話を聞いて、それぞれの考えの違いを知ることである。

[研究会議の様子]